

第459空輸中隊、クリスマスイブにCOVIDの検体を空輸

January 13, 2022

By Staff Sgt. Ryan Lackey
374th Airlift Wing Public Affairs

2021年12月24日、第459空輸中隊の空兵は日本政府からの緊急要請を受け、沖縄米海兵隊基地キャンプ・ハンセンから米陸軍基地キャンプ座間へCOVID-19の217検体を届ける支援を行った。

C-12Jヒューロンは、まず横田基地から嘉手納基地へ向かい、検体を積んだ後、翌日の検査のため、地上輸送に間に合うように帰還しキャンプ座間の医学研究室(メディカルラボ)に届けた。

第459空輸中隊司令ジョセフ・ウォルターズ中佐は「12月23日にこのミッションの要請を受け、直ちに乗員、航空機、フライトラインの準備に取り掛かった。過去18ヶ月間、関東の地域で同様の貨物の安全な取り扱いについて相当な練習を行ってきた。そのため、休日かどうかにかかわらずいつでも作戦支援空輸を行う準備ができており、緊急要請は問題にはならなかった」と語った。

米海兵隊遠征軍、米空軍、日本の同盟パートナー間の効率的なコミュニケーションと調整により、要請を受けてから約36時間でキャンプ座間の医学研究室に検体が届けられた。

「今回の任務は、第459空輸中隊がどんな時でも迅速な空輸任務を遂行できることを示す直近の例である」と、ウォルターズ中佐は述べた。

第374空輸航空団は、敵を牽制するだけでなく、日本のコミュニティと在日米軍を支えるために、迅速な空輸能力を活かしミッションパートナーと同盟国の支援に取り組んでいる。



Image Photo: taken June 14, 2016